

# 温室効果ガス排出量検証報告書

株式会社大林組 御中

## 1. 検証の対象

一般財団法人日本品質保証機構(以下、「当機構」という。)は、株式会社大林組が算定した2022年度の温室効果ガス(GHG)排出量の算定報告書(以下、「算定報告書」という。)が、同社により作成されたGHG排出量の算定ルール(以下、「算定ルール」という。)に準拠し、正確に測定、算出されていることについて第三者検証を行った。2022年度とは、2022年4月1日～2023年3月31日までの期間をいう。

検証の目的は、算定報告書を客観的に評価し、同社の2022年度のGHG排出量算定の信頼性をより高めることにある。

## 2. 実施した検証の概要

当機構は、「ISO14064-3」に準拠して検証を実施した。本検証業務の対象活動範囲は、Scope1、2のエネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量及びScope3のGHG排出量(カテゴリ1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15)であり、保証水準は「限定的保証水準」、重要性の量的判断基準値は総排出量の5%とした。また、本検証業務の対象組織範囲は、株式会社大林組の国内オフィス12拠点、海外オフィス2拠点(11現地法人を含む)、国内の建築・土木施工現場1,106拠点及び株式会社大林組の国内グループ会社12社とした。

Scope1,2に関する検証では、サンプリングにより株式会社大林組の札幌支店、東日本ロボティクスセンター及び建築・土木施工現場6拠点と大林道路株式会社の本店、中部支店、名古屋営業所及び静岡アスファルト混合所を現地検証の対象とし、各拠点における算定対象範囲の確認、エネルギー使用量監視点の確認、算定・集計体制の確認、活動量データについて根拠資料との突き合わせを行った。なお、現地検証の対象とした一部の拠点の決定は株式会社大林組が実施した。

算定ルールの確認及びScope3に関する検証では、算定シナリオ及びアロケーションの確認、算定集計体制の確認及び排出量データについて根拠資料との突き合わせを行った。

## 3. 検証の結論

検証の対象とした2022年度の算定報告書のGHG排出量において、算定ルールに準拠せず、正確に算定されていない事項は発見されなかった。

温室効果ガス(GHG) 排出量	Scope1(エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量)	Scope2(エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量)	Scope3(GHG排出量)
	234,775t-CO <sub>2</sub>	51,449t-CO <sub>2</sub>	4,231,800t-CO <sub>2</sub> e

## 4. 留意事項

算定報告書の作成責任は株式会社大林組にあり、GHG排出量の検証の結論に関する責任は当機構にある。株式会社大林組と当機構との間には、特定の利害関係はない。

東京都千代田区神田須田町一丁目25番地

一般財団法人日本品質保証機構

理事 浅田純男

